

百草

ひやく にち そう

No.30

特定非営利活動法人たすけあい大田はせさんず
〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3
TEL03-5747-2610 FAX03-5747-2620
e-mail・info@hasanz.com
URL・http://hasanz.com/

はせさんずは会員制のたすけあいの会です。入会随時受付！
NPOの非営利活動にご寄付ご支援をお願いします



介護ならではの、NPOならではの取り組みへ

NPO法人たすけあい大田はせさんず
理事長 棧敷洋子

2020年度はコロナとの戦いの一年でした。職員一人ひとりが、三密を避け、手洗い消毒などの感染対策を行いながら、サービスを継続してくれたことに感謝しています。ここにきて、ワクチン接種も始まり、少し明るい兆しが見えてきました。引き続き気を引き締めつつ、感染発生などに備え、事業継続のしくみや感染拡大させない体制などを整えていきたいと思えます。

2021年は介護保険制度の改定年です。要点として「感染症や災害への対応力強化」が挙げられているのは当然として、ほかには「地域包括ケアシステムの推進」「介護人材の確保・介護現場の革新」「制度の安定性・持続可能性の確保」などがうたわれています。介護の社会化をめざし、制度の立ち上げを応援したNPOからすれば、いずれも必要不可欠のテーマですが、必ずしも私たちの思いに込める内容ばかりとはいえません。

訪問介護は身体介護中心のプランが増え、高齢者の在宅生活にいちばん必要な生活援助は抑制されています。通所介護はリハビリ・機能訓練、^{こうじょう}口腔・栄養の取り組みなど、医療系の専門職との連携が推奨されます。今や地域に欠かせない訪問看護は本来医療サービスであり、施設での医療ニーズへの対応強化や看取りへの評価など、医療・看護重視の傾向は進んでいて、介護保険が医療保険を補填する制度となっているように思われます。介護人材を将来にわたって確保するには、介護職の収入面での処遇改善だけではなく、その社会的地位を向上させる意識改革が求められますが、テクノロジーの活用、科学的介護の取り組み推進などが、はたして、地域での在宅生活を支援するために本当に効果のある取り組みなのか、疑問を感じています。

「看取りへの対応」については、この超高齢社会で避けて通れない問題です。病院や施設だけでなく、望む・望まないにかかわらず在宅での看取りが増えていくと思われますので、医療・看護と訪問介護などが連携することは必須でしょう。どのように利用者の尊厳を守りながら最期まで介護を続けるか、家族を支えるかなど、ケアマネジャーや介護職のレベルアップも必要です。医療サービスが入る時間は一日のうちそれほど長くはなく、介護保険が利用できる時間も限られてくるでしょう。そのような場合に、水分補給をしながら見守りをしたり、穏やかに話し相手をしたり、家族が最期の時間をともにすごせるよう家事を肩代わりするなど、NPOが支援できることは少なくないと思われます。看取りのためのボランティア研修なども検討していきたいと考えています。

第23回通常総会開催

議案のすべてを承認

第23回通常総会を、5月23日(日)10時から、はせさんず事務所1階(デイホーム)で開催しました。本年は昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、例年とは開催形式を変更しての開催となっています。

原則として議決権行使書(郵送)での賛否表明を行う形式で実施しました。

その結果、社員総数25名のうち、出席者13名、委任状表決者(議決権行使含む)10名により総会は成立し、下記5議案が異議なく承認されました。

- 第1号議案 2020年度事業報告
- 第2号議案 2020年度決算報告
- 第3号議案 2021年度事業計画(案)
- 第4号議案 2021年度活動予算(案)
- 第5号議案 役員改選(案)

●2021(令和3)年度事業計画

新型コロナウイルス感染の収束状況や対応が予測できないため、本年度は事業が計画通り執行できない場合があります。

[会員制活動事業]

年間6,400時間を目標としますが、たすけあいの活動者を増やすためのボランティア講座は感染防止のため小規模での実施を検討。移送活動会員の研修会は引き続き行い、安全対策などを徹底します。

コロナ禍でなお厳しい状況にあるNPO運営への支援を募るキャンペーン期間を後期に定め、寄付活動の強化を図ります。

連携している外部団体には継続参加し情報交換するとともに、地域の関連の団体とも交流を図ります。

[元氣かい]

元氣な高齢者の介護予防活動を地域ごとに広めるため、参加する人が集まりやすい会場探しに努め、「テラッコ池上」の使用も拡大します。ただし、麻雀などは後期の検討とします。

[市民後見事業]

任意後見活動を中心に、養成研修修了者による見守り活動を促進します。また、ケアマネジャーとの連携による後見相談を増やします。

[居場所事業]

寄り道カフェは、池上駅前商店街の貸しスペース「テラッコ池上」で運営します。相談事業や介護予防体操、高齢者への情報提供となる講座などを組み合わせ、毎週開催します。

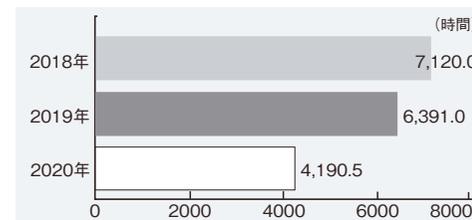
[介護保険事業]

大田区総合事業や自費サービスも合わせた活動目標は、訪問介護が年間9,960時間、居宅介護支援は年1,476件のケアプラン作成と月4人程度の認定調査、通所介護は年間利用者4,320人です。

今年も職員やヘルパーのレベルアップ研修に取り組みます。通所介護は利用者の満足度を高めるために、変化に富む食事の提供や体力維持を図る体操プログラムなどを実施します。

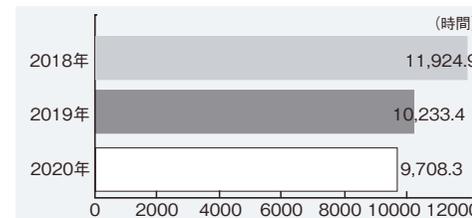
●2020(令和2)年度事業報告資料(3年間の部門別活動状況)

[会員制活動事業]



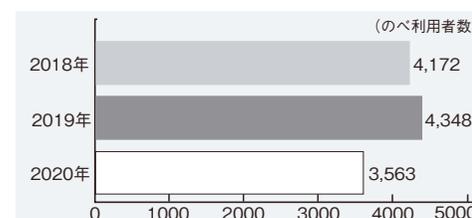
目標の6,400時間に対し65.5%の実績で、前年度比も65.6%と減少。新型コロナウイルス感染対策による利用自粛があったため。しかし切実なサービス依頼には柔軟に対応した。

[介護保険訪問介護事業]



大田区総合事業および保険適用外サービスを合算して、目標の9,960時間に対して97.5%の実績で、前年度比も94.9%と、コロナ禍の中でも必要なサービス継続に健闘した。

[介護保険通所介護事業]



目標の利用者数4,320人に対し82.5%の実績で、前年度比も81.9%と減少。密を防ぐべく抑制したためだが、通所希望にできるかぎり沿うよう、感染対策やサービス方法を工夫している。

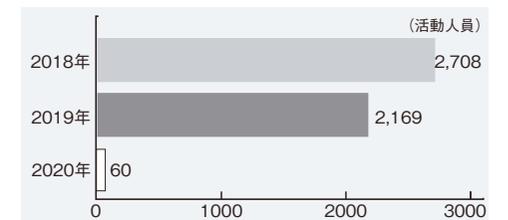
[障害福祉サービス事業]

年間7,800時間を活動目標とします。相談支援従事者研修を受講して、障害者の理解を深めます。外部会議にも継続して参加し、サービスや研修などで事業者間の連携を図ります。

[保育事業(大田区委託事業)]

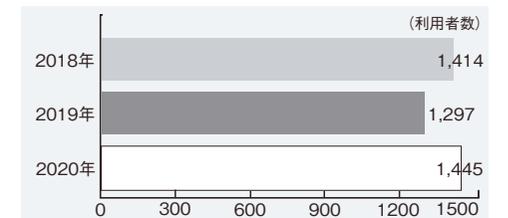
調布、蒲田、大森、糎谷・羽田の各地域庁舎で実施される母親教室の中での保育を

[元氣かい]



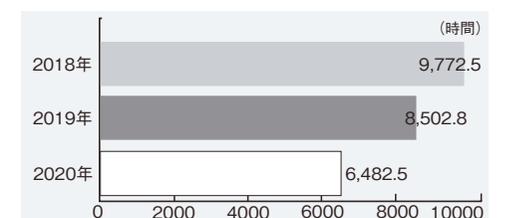
新型コロナウイルス感染防止のため、絵手紙や英語サークルなどの一部を除き、活動休止の状況である。

[介護保険居宅介護支援事業]



要支援者を含む利用者数の目標1,452人に対して99.5%の実績、前年度比も111.4%と増加した。前年度採用の非常勤ケアマネジャーを加え、利用者数が安定した。

[障害福祉サービス事業]



目標の7,800時間に対して83.1%、前年度比は76.2%の実績。対応できるヘルパーの不足でサービス範囲を広げられない状況に加え、コロナ禍で外出支援の利用自粛もあった。

年間700時間ほど担当します。

[その他の事業]

外部への講師派遣、学校団体の職場体験、現場研修などを引き受け、地域貢献と同時にNPOの活動の実際を知ってもらうことに努めます。

●決算・予算について

2020(令和2)年度の会員制活動、介護

保険、障害福祉サービス等を合わせた法人全体の総収入額は1億2,820万円（前年度比92.4%）、総支出額は1億2,836万円（前年度比92.8%）。当期収支差額は-16万円。

会員制活動では移送サービスが赤字でしたが、多くの方から寄付が集まり、全体で74万円の黒字となりました。介護保険訪問介護および障害福祉サービス事業では、年間活動時間は目標を下回りましたが、相対的に人件費も少なくなり、補助金なども加えて、収支は黒字でした。しかし、通所介護事業では感染防止のための利用者数抑制により収支が大きく悪化し、介護保険等事

業全体で90万円の赤字となりました。結果、法人全体では若干の赤字にとどまりました。

2021（令和3）年度の予算は、法人全体で1億3,561万円（前年度比98.9%）となりました。事業計画と同様に合理的な予算が組みにくくなっているため、各事業の前年度予算をもとに作成したものです。

●役員改選

任期満了に伴う役員改選です。役員候補者全員が承認され、理事の互選により棧敷洋子さんが理事長に再選されました。

2021(令和3)年度月別活動予定

- 4月 『はせさんずニュース』No.93(春号)発行
- 5月 第23回通常総会
- 6月 『百草』No.30発行、寄り道カフェ
- 7月 移送活動者安全研修会、暑気払い懇親会(事業説明会)、寄り道カフェ、元気かい
- 8月 成年後見制度内部職員研修、寄り道カフェ
- 9月 介護職員検診(検便)、『はせさんずニュース』No.94(夏号)発行、寄り道カフェ、元気かい
- 10月 職員防災避難訓練、保育者研修会・懇親会、ヘルパー研修会、寄り道カフェ、元気かい
- 11月 寄付キャンペーン、『はせさんずニュース』No.95(秋号)発行、寄り道カフェ、元気かい
- 12月 ボランティア講座、年末懇親会、寄り道カフェ
- 1月 『はせさんずニュース』No.96(新春号)発行、障害者支援研修会、寄り道カフェ、元気かい
- 2月 講演会、ヘルパー研修会、寄り道カフェ
- 3月 移送活動者情報交換会、寄り道カフェ

※新型コロナウイルス感染長期化のため、計画通り実行できない場合があります。

2021(令和3)年度役員

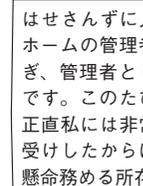
理事 榎 拓巳(新任) 岡田 香(新任) 乙部裕美
金子文一 小林恵子 棧敷洋子
高木清彦 竹西 理 矢嶋早苗
監事 大澤恵美子(理事→監事) 吉田安男

新任役員挨拶



理事 榎 拓巳さん

ヘルパーステーションに6年間在籍し、現在は訪問介護と障害福祉サービス事業の管理者をしています。介護現場に直接携わる立場から現状や課題を発信し、微力ではありますが地域福祉のために少しでもお役に立てればと思います。



理事 岡田 香さん

はせさんずに入職して7年、デイホームの管理者としても2年が過ぎ、管理者として悪戦苦闘の毎日です。このたび理事に任命され、正直私には非常な重責ですが、お受けしたからには微力ながら一所懸命務める所存です。

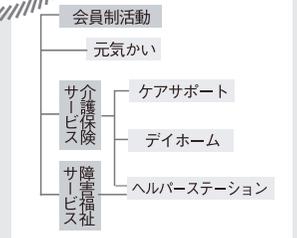


監事 大澤恵美子さん

区報を見てはせさんずの活動に参加。移送サービスを始め業務に23年間かかりました。このたび、事務局を卒業、理事を退任して監事に任命されました。微力ではございますが、これまでの経験をもとに法人の活動がうまく運べるよう見ていきたいと思っています。

mini News

各部門
今年度は
ここが重点!



会員制活動

「安全が第一」の移送活動を

警視庁池上署からの案内で「セーフティドライブコンテスト」に参加します。5～10月の実施期間無事故・無違反であれば「運転記録証明書」が授与されるもの。全移送活動者の取得をめざし、移送は安全が第一という活動を推進します。(矢嶋早苗)

ヘルパーステーション

緊急時対応、ニーズ多様化に備え

感染症や自然災害などの緊急時にもサ責やヘルパーがすぐ対応できるよう、事業所としての体制を考えます。

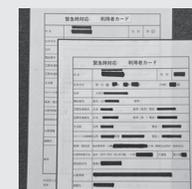


また、東京都が開催する介護職員等による^{かくたん}喀痰吸引研修や、その他の研修を受講してヘルパーの質の向上を図り、さまざまなニーズに対応できるようにしていきます。(榎拓巳)

ケアサポート

新緊急連絡カード活用に向けて

災害発生などの緊急事態に際して利用者の安否を確認し、必要な医療や介護サービスがとどえることがないようするため、利用者情報を「緊急連絡カード」として作成しています（停電に備え紙ベースで保管）が、今年は避難先を利用者にも再確認してもらい、いざに備えます。(清水桂子)



デイホーム

「全員無事」が最重要目標

感染拡大の厳しい状況の中、利用者、家族、職員が気持ちを一つにして無事にすごせた昨年。チームワークの賜物です。少し光が見えてきましたが、気を緩めることなく、昨年同様、全員無事にすごすことが本年度の最重要目標です。チームワークを揺ぎないものとし、同心協力していきたいと思っています。(岡田香)



元気かい

離れていてもふれあい密に

自粛の1年が過ぎ、改めて元気かいの場で会話できることがなんと幸せなことかと感じました。直接会話し、一緒に活動を楽しめる“場”づくりは、これからも実践していきたい。また、スマホ活用講座を通じてリモートで会話できる環境ができつつあり、併行して高齢者の道具にスマホを役立てていきたい。(佐藤悟)



■はせさんず第23回講演会

医師が考える新型コロナウイルスとのつきあい方



講師：鈴木 央(すずき ひろし)さん
鈴木内科医院院長。プライマリ・ケア連合学会認定医、指導医。
2021年3月6日(土) Luz大森4階入新井集会室にて

新型コロナウイルスの世界的大流行で公共施設や店舗の使用制限、時短、サラリーマンの在宅ワークなど、日常生活が大きく変化しています。外出が制限されて人間関係が希薄になり、気持ちまで沈みます。高齢者は感染すると重症化リスクが高いとされ、健康問題が最大の悩みです。急速に収束するとは思えないこのコロナ禍中、私たちは何に気をつけ、どのような心構えで暮らせば乗り越えられるのでしょうか。診療をなさる医師の立場からのお話を聞きます。

新型コロナウイルス感染症とは

新型コロナウイルスについて

去年の今頃はマスクやアルコールもなかったし、咳をする患者を診るのは医師でもちょっと不安でしたが、1年たって、コロナの患者を何人も診察し、治るのを見てきて、だいぶつきあい方がわかってきました。

コロナウイルスは7種類あり、その新しい型なので新型といいます。そのうち4種類は風邪のウイルスで、風邪の15～20%ぐらいを占めるといわれ、重症の呼吸器障害を起こすSARSやMARSもあります。

今回の新型コロナウイルスが7種類目で、WHOはCOVID-19という名前をつけました。

症状は風邪と区別しづらいものから肺炎まで

おもな症状は熱、咳やのどの痛み、強いだるさ。これらは風邪やインフルエンザと区別できないので、現在は一応コロナの検査をします。

味覚嗅覚障害や下痢を起こすこともあり、呼吸が苦しい、胸が痛いとなると、新型コロナウイルスで肺炎を起こしている可能性がありますので要注意。こういう時期になればPCR検査をしなくてもレントゲンやCTでわかります。

肺炎を起こすと

ウイルス性肺炎の特徴はしばしば両肺で炎症を起こすことで、両方起こすと呼吸がうまくできず、酸素吸入しないといけないし、ひどい場合は人工呼吸器やエクモといった体外循環の機器を使うような治療をしないと生命を維持することができなくなってしまいます。ただ、こういう状態になるのは一部で、日本は非常に治療成績がよく、95%の人は重症化することはありません。

無症状の人がいる

SARSやMARSなどの場合は、発熱があったり、呼吸困難や咳が出たりしますが、このウイルスのいちばんやっかいなところは無症状の人がいることで、これがほかのウイルスとの大きな違いです。

また、発症1日前、つまり無症状のときに、もっともウイルスを排出するといわれるので、人に感染させない努力が必要です。

飛沫感染、接触感染がおも

飛沫感染は、咳をしたり大きな声で話したりするときにつばと一緒にウイルスが空気に出て、その漂っているウイルスを吸い込んだり目の粘膜に入ったりして感染するもの。

接触感染は、触ったものにウイルスがつ

いていて、自分の口や目に触るとウイルスが入って感染するもの。

この2つを徹底的に注意することです。

エアロゾル感染は、飛沫感染と混同されますが、一般の環境ではまれで、感染者がひっきりなしに咳をしているとか、気管に管を入れたり、痰を吸引したりするときに発生するなど、ほとんど病院内でのことです。

感染予防には

飛沫感染への対策はまずマスク

マスクのいちばんの役割は人にうつさないことなので、鼻に沿ってぴったり押さえたものがないとされますが、飛沫がもれなければどのタイプでもいい。そのほかアクリル等でパーテーションをする、会話を控えるなどで、飛沫を抑えます。

飛沫を吸い込まないためには距離をとる。ガイドラインでは2メートルですが、これは屋外で距離をとる場合で、お互いがマスクをしていればもう少し近くても問題ない。アクリル等のパーテーションをするとさらに有効です。

そしてウイルスを滞留させない換気。

これらを徹底してやるのが重要です。

接触感染への対策は消毒

自分の手指の消毒をはじめ、よく使う机や用具も消毒する。石鹸を使えばこのウイルスはすぐ死んでしまうので、石鹸での手洗いも非常に有効です。目や口、鼻などをむやみに触らないようにすることも大切ですが、触ってしまったときには洗うしかないので石鹸で洗顔をします。

多くの人が触るところの消毒も重要で、これを定期的に行うこと。家の中ではトイレの出入り口、電気のスイッチなど。

ウイルスがついていることを前提に

ウイルスが残っている時間は、エアロゾルとしては3時間、銅の上では4～8時間、段ボールでは24時間、ステンレスでは2



日間、プラスチックでは3日間となっていますので、ウイルスが残っていると考えると、こまめな消毒が必要です。

たとえば、スーパーに入るときには出入り口にある消毒液で消毒するでしょうが、出るときにも消毒をする。自分で携帯用の消毒液を持って、電車やバスに乗る前に消毒、降りたときに消毒するといったと思います。これをこまめにしてください。手袋を使ってもいいのですが、ずっと同じ手袋をしていると汚れてくるので、その手袋で顔を触ったら何の意味もない。手袋をこまめに交換することが必要です。私は手袋よりアルコール消毒や手洗いを基本にします。

エアロゾル感染対策

テレビで見ると病院で働いているスタッフは、キャップ、アイシールド、N95という目の細かいマスク、使い捨て手袋、防護服などを着用していますが、私たちがここまでの対策が必要なことは少ないです。

感染対策をまとめると

やっぱり三密を避ける、密閉、密集、密接な場面を避け、こまめな手洗い、手に触れるものの消毒、マスク装着、これを可能な範囲で徹底するのが、非常に重要です。

ちゃんと対策をしていれば、近くに寄っただけで感染するものではありません。

自宅周囲を散歩するときにはマスクをはずしても大丈夫ですが、近くの友達と話をするときにはマスクをしたほうがいいでしょう。ソーシャルディスタンスを守るといっ



でも、マスクを装着し、大声でしゃべらなければ2メートルより近くても大丈夫。くしゃみや咳をするときには、マスクをしっかり押さえてすきまから漏れないようにすると、飛沫が抑えられます。

ある程度人数を絞れば、ソーシャルディスタンスをとって、こうやって集まることもできます。

気になる新型コロナワクチン

ワクチン接種が始まる

ついにワクチン接種が始まります。今後承認されるものも含め、ファイザー、アストラゼネカ、モデルナの3種類で、集団接種や個別接種について大田区広報が出ています。今後は寝たきりの人や施設に医師が訪問して接種できるようにもなるでしょう。

ワクチンで心配なこと

ワクチンについて、体の中のDNAが書き換えられるのではないかと、ワクチンによってコロナが発症したり感染したりするのではないかと、などと心配する人もいますが、DNAが書き換えられることはないし、感染する確率は極めて低い。

副反応としては、発熱や倦怠感などですが、こういう反応があるということは、体の中に抗体ができてきて、免疫力がついてくるということですから、私は副反応が出てもあたりまえだと思います。

アナフィラキシーショックについて

このワクチン接種でのアナフィラキシー

ショックは20万人に1人ぐらいといわれ、普通の薬をのんで起こす確率の10万人に1人よりリスクが小さい。薬アレルギーや花粉症のある人がアナフィラキシーショックを起こすとも限らないので、私は接種をしてもいいと思います。注射後15分から30分で発症するので、接種後によすをみて、もし発症しても早期治療をすれば大丈夫です。

ただし全員がワクチンを打たなければいけないというわけではありません。価値観はみんな違いますので、怖くていやだと感じる人は打たなくていいと思います。

コロナ禍の中で年齢を重ねる

自粛生活の中で年齢を重ねると

もともと75歳を過ぎると、体や心が弱くなってきます。そのうえコロナ自粛で外出を控える生活を続けていると、それまでできていたことができなくなって、フレイルの状態に近くなる人が増えています。かつてはフレイルになると元に戻らないといわれましたが、最近の研究できちんとがんばれば元に戻ることもわかってきました。ポイントは「栄養」「運動」「社会活動」です。

フレイルとサルコペニア

「フレイル」とは「虚弱」ということで「筋肉減少＝サルコペニア」がおもな原因です。だんだんやせ衰えて筋肉が少なくなった状態で、寝たきりになることもあります。しかし、サルコペニアで足腰が弱ってしまうという体だけの問題ではありません。

原因は運動不足だけではない

フレイルは、筋肉が減る→代謝が悪くなる→消費エネルギー量が落ちる→食欲も低下して摂取量が減る→低栄養で体重も落ちてくる→ますます筋肉が減少する、というサイクルで悪くなります。疲労しやすくなり活力が落ちる、筋力も低下して歩行速度も落ちるため外に出ないようになり、活動

度も下がる。

気持ちが落ち込んでうつ状態になったり、認知機能が低下して外に出ることも人と話すこともできなくなったりする「心理的・認知的フレイル」や、閉じこもり、困窮、孤食（ひとりで食事する）などの「社会的フレイル」の状態もあります。

悪循環のサイクルを断ち切る

まず、引きこもらないということです。会えなくても電話で友達とおしゃべりする、買い物に行く（ときには電車に乗って）など、体を動かす。近所を30分ほど速足で散歩するというのもいいですね。友人と散歩しながらおしゃべりできればもっといい、お互いマスクをすればリスクは少ないです。

肉や魚のたんぱく質や、バランスのいい食事を摂り栄養をつけましょう。ときどき体重も測って、体重が減らないように心がけてください。太ったからやせなきゃと思っている人がいますが、それは若い人の話で、75歳を過ぎると運動なしの食事療法で体重を落とすとサルコペニアになる可能性が大きいので注意してください。

口腔機能の管理が重要

要介護の入り口としてサルコペニアにならないように注意するもう1つのポイントは、口の機能の低下に気をつけること。

噛めないで柔らかいものを食べると、噛む機能がさらに低下する、柔らかい炭水化物が中心の食事になる、そうするとたんぱく質の量が減るので口腔機能の低下やサルコペニアが進むことになります。

オーラルフレイルでハイリスクに

残っている歯が20本未満、咀嚼（かむ）力が弱い、舌の力が弱い、滑舌が悪くなった、固い食品が食べづらい、むせこむことが増えてきた、これらの項目のうち3項目以上引かかる人は、口の働きが衰えているオーラルフレイルで、正常群に比べて身体的フレイルやサルコペニア、要介護認定にな

るリスクや、総死亡リスクも高くなっている、たいへん怖いといえます。

生活習慣病予防からフレイル予防へ

最近、生活習慣病への対応が今までと変わってきました。

- ・高齢者の場合、血圧はあまり寿命と関係がない
- ・高脂血症（コレステロールが高い）はリスクが低ければ治療しないことが多い
- ・糖尿病はきちんとコントロールが必要なが多いが、高齢者は若い人に比べてちょっと基準がゆるくても大丈夫 など。

ですから、個人差はありますが、65～75歳には、生活習慣病予防からフレイル予防へ切り替えて考えていかなければいけない。75歳以上になったら完全にフレイル対策にしていきたいと思います。

何より大事なものは、社会とのつながり

いちばん元気だったのは誰？

①ひとりで黙々と運動を続ける人、②家で引きこもっている人、③運動は全然しないが趣味のサークル活動や社会的活動をする人、このなかでいちばんフレイルが少ないのは③だったという研究があります。

コロナ禍でも、地域の中でのつながりはますます大切になります。私の診療所は患者の8～9割が高齢者。たくさんの高齢者を診てきて思うことは、やりがいのある仕事、家庭や地域での役割をもっている人は元気だということです。

かかりつけ医をもち、相談してください

地域でかかりつけ医をもちましょう。医者と人間的にうまく合うかどうかをみて決めればいい。地理的に近いことも大事です。風邪のときや、血圧や健康診断の結果などいろいろ相談できますし、必要ならば専門医を紹介します。かかりつけ医でコロナの検査ができるようにもなりましたし、心配せず早めに受診してください。

私たちのあゆみ

2020(令和2)年4月～2021(令和3)年3月

2020. 4. 9(木) 大田 NPO 活動団体交流会 (役員会、議員懇談会、学習会、こども部会) 以後全19回 矢嶋

20(月) 大田区訪問介護事業者連絡会・研修会 以後全7回 棧敷

27(月) 訪問介護員初任者研修 (都立美原高校) 講師として矢嶋

28(火) 東京都社会福祉協議会たすけあい部会 (総会含む) 以後全10回 矢嶋

5.24(日) 第22回通常総会 はせさんず事務所デイホームにて

新型コロナウイルス感染拡大に配慮し、原則として議決権行使書(郵送)での賛否表明を行う形式としました。

6.16(火) 東京都介護保険居宅事業者連絡会 以後全5回 棧敷

26(金) 『百日草』No.29 発行

『はせさんずニュース』No.90 発行

以後10.20No.91、1.15No.92発行

No.90臨時号では「『はせさんずアンケート』の結果から」、No.91秋号では「コロナ渦のなかでも支援を続けられることを願って!」、No.92新春号では「コロナ渦を超えて支援を続けるために力を合わせる!」を特集しました。



『はせさんずニュース』No.90臨時号でアンケート結果を紹介

7.6(月)～10(金) 防災避難訓練(模擬演習) 全5日間 のべ参加者50名

7.7(火) はせさんず寄り道カフェ テラッコ池上にて 以後全16回のべ参加者135名

15(水) 地域包括ケアの会 オンライン研修 以後全2回 清水

22(水) デイホーム運営推進会議 書面連絡 以後全2回

28(火) 大田区自立支援協議会 以後全8回 棧敷・榎

31(金) 大田区福祉有償運送運営協議会 書面協議

9.10(木) 3事業部合同研修「感染症の予防と対策」 参加者11名

大田区介護保険課研修 大森庁舎にて&オンライン研修 以後全7回 清水・平山・小室

11(金) 安全運転管理者講習 内山

14(月) 大田区介護支援専門員連絡会 オンライン研修 以後全4回

17(木) ハラスメント研修 蔵野 参加者7名

30(水) 大田区在宅医療連携推進協議会 以後全2回 棧敷

10.9(金) 東京都相談支援従事者初任者研修 オンライン研修&大田区産業プラザほかにて 以後全9回 榎・小林

11(日) 暮らしの足をみんなで考える全国フォーラム

オンライン参加 佐藤



寄り道カフェ(テラッコ池上)



地域包括ケアの会オンライン研修

清水・平山・鈴木・小室



東京の暮らしの足を考える会オンライン会議

■ご冥福をお祈り申し上げます

浅野 久雄さん 植田 岸さん 漆戸 和雄さん 大石 久毅さん 栗原 宣之さん
武井 修さん 野田 壽子さん 藤芳 修三さん 前川 昌さん

(会員のみ)

10.12(月) さわやか福祉財団インストラクターオンライン会議 佐藤

20(火) サービス提供責任者スキルアップ研修 榎・平尾・明石・生田目・櫻井

11.11(水) 大田区福祉有償運送運営協議会 棧敷・高木・金子・佐藤

17(火) ヘルパーステーション・デイホーム合同研修

「介護記録の書き方」 参加者8名

21(土) 移送サービス運転協力者講習 以後全2回 五十嵐・片柳・菊池

12.1(火) 2021年版パラアートカレンダー制作・販売 124部

12(土) 東京の暮らしの足を考える会 オンライン会議 以後全2回 佐藤

2021. 2. 1(月) たすけあい在宅移送システムリリース

19(金) 防災避難訓練(水害編) 以後全5回 佐藤 のべ参加者62名

3. 6(土) 第23回はせさんず講演会

「医師が考える新型コロナウイルスとのつきあい方」

Luz大森4階入新井集会所にて 参加者23名

9(火) サービス提供責任者初任者研修 以後全2回

榎・平尾・明石・生田目・櫻井・星

11(木) 認知症ユマニチュード研修 オンライン研修 参加者8名



2021年版パラアートカレンダー



たすけあい在宅移送システムリリース

はせさんずに、ご寄付をありがとうございました

2020(令和2)年度寄付者

浅島賢一郎	新井登代子	安藤くに子	石川富志子	市川洋子	伊藤英子	伊藤笙子
岩井康一	植田興二郎	上田隆正	鶴飼栄子	漆原富紀子	大澤恵美子	大鰐順子
奥山陽子	小田登起	乙部裕美	柏木洋子	加藤千恵子	金井まさ子	加納幸枝
鎌田美智子	北原美佐子	木村善昭	栗山ゆみ子	小平康人	後藤敏江	小宮山一美
小室恵美子	坂口郁子	佐藤京子	佐藤精一	棧敷洋子	篠田明夫	篠原玲子
渋谷宏子	清水富佐子	清水真人	鈴木正身	鈴木悦朗	外間記代	高木敦子
高木清彦	高杉玲子	高橋和子	田中智江子	田中俊博	田中美枝子	玉木虚之
田村政子	田村裕子	豊田重昭	内藤喜久子	長岡慶子	中田和美	那須恵子
温井克子	野口健治	野崎節子	濱田伸子	速水純子	原田一恵	原田光明
平尾叔江	平林祥子	深尾節子	福原多美江	福本忠雄	藤芳修三	別所越子
人見敏郎、順子	星野輝昭	堀井聡美	増渕友美	松本弘子	松本牧子	峯岸順子
宮浦完次	三宅啓子	宮崎代美	宮 輝彦	森みつ子	矢嶋早苗	八代静子
山本純子	吉井賀津子	吉田安男	渡邊 泰	渡辺由美子		

以上90名(敬称略五十音順) 総額2,933,248円でした。皆様からのご芳志は、はせさんず運営費として有効に使わせていただきました。なお、大田区より福祉有償運送補助金として434,500円の交付を受けています。

避難訓練計画から業務継続計画へ

■従来より防災避難訓練を実施

はせさんずでは従来より、「非常災害対策計画」や「防火管理業務実施計画書」等に基づき、定期的な火災&水害の避難訓練の実践・研修を実施しています。

■火災避難訓練は消防署での研修をふまへ

火災に備えての避難訓練は、田園調布消防署での研修をふまえて、次の要領で行います。

- ①火災発生・避難指示（ちゅうぼう厨房から出火）
- ②通報連絡（119／所轄は久が原出張所）
- ③初期消火（消火器）
- ④避難誘導（避難場所は蓮沼中学校）

このうち、たとえば③初期消火では、消火器の実際の操作は職員がしますが、利用者も「消火器ってこんなに重たいの」「放射時間はクイズ（答え14秒）」など、身近に感じられる訓練を実施しています。また、④避難誘導では、利用者の誘導はスタッフが役割分担して行いますが、併せて2階事務所の職員も、「階段使用不可」を想定してベランダから避難できるように非常梯子はしこの降下訓練を実施します。



■河川氾濫避難訓練は区のハザードマップに基づき

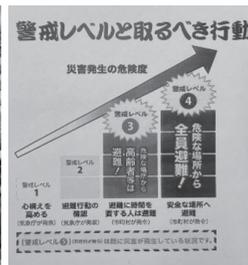
『大田区ハザードマップ（風水害編）』によると、はせさんず事務所は、中小河川・呑川氾濫による浸水は0.5～1.0mと想定されています。避難の要点は次の各点。

- ①防災気象情報の理解
- ②警戒レベルと取るべき行動（高齢者は警戒レベル3で避難開始！）
- ③避難警戒情報と取るべき行動

大田区が発令する警戒レベル3を待つことなく、気象庁発表の警戒レベル2および呑川水位のライブカメラ情報で行動を起こすことが重要です。

■感染症発生時も含めた業務継続計画へ

今後に向けては、新型コロナウイルス感染症発生時&自然災害発生時における業務継続計画（BCP）へと展開すべく、委員会を立ち上げ、検討を進めています。（佐藤悟）



編集後記

気づけば30号です。年1回発行なので30年を経たわけです。つまり今年にはせさんず25周年。思えば、15周年の記念総会（+講演会、交流会）を開いて以来、節目のイベントを催していません。人と出会い、つながり、つながり続けることの意義と困難さを確認したこのコロナ禍中、はせさんずの存在意義も問い続ける日々……。（小林恵子）